



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト クリーン農業ニュースレター 第2号 2019年12月発行

このプロジェクトは、5年間（2017-2022）のJICAによる技術協力プロジェクトで、ビエンチャン市、ルアンパバン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及びGAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. 雨季の野菜栽培の改善に関する研修

2019年10月17日に、ルアンパバン県農林事務所において、短期専門家（有機野菜栽培）として派遣されていた松井専門家の指導の下で、サイヤブリ県及びルアンパバン県の有機農家を対象として研修を実施しました。同様の研修をシェンクワン県でも10月23日に開催しました（写真1及び2）。いずれの研修でも、50名以上の農家を対象として、県及び郡農林事務所及びクリーン農業基準センターの職員が講師となり、研修を実施しました。



写真1 シェンクワンの郡農林事務所職員による野菜栽培の改善技術に関する研修

この研修は、松井専門家が実施した実証圃場（ルアンパバン及びサイヤブリ）及び10農家の畑（シェンクワン）での実証試験に基づき、(1)たい肥の生産と利用、(2)雨季の野菜栽培技術の改善、及び(3)たい肥製造とについてのグループ・ディスカッションという3つをテーマとして実施されました。

この研修で、農家は、たい肥の製造及び施肥法の改善の必要性、及び、高畝栽培が、雨季の水の過剰を回避し、ニンジンやトマトなどの特定の野菜の品質の改善のために有効であることを学びました。（写真3）



写真2 ルアンパバンの実証圃場を訪問



写真3
高畝（左）と平畝（右）のニンジンの比較（播種後84日経過）（シェンクワン県ムアン村）

2. ビニールハウス及び野菜栽培実証プログラム実施 - シェンクワン 8月～11月

シェンクワン県において、雨季の有機野菜栽培における収量と品目拡大を目的とした、ビニールハウス及び野菜栽培実証プログラムを実施しました。プロジェクトの対象郡であるペック郡の8村から特に販売活動に積極的な10世帯がプログラムに参加しました。

まず、ビニールハウス設置のため、クリーン農業基準センターによる2日間の研修を実施しました。その後、県農林事務所と郡農林事務所の指導の下、参加農家が各農地を順番に回り、共同作業で1日に1棟ずつビニールハウスを設置しました。

設置に係る費用はプロジェクトと農家で負担し、プロジェクトがビニールシート、釘、ロープ、テープ、ワイヤを提供し、農家はビニールハウスの骨格となる木材と竹を近くの林で伐採したり、業者から買うなどして用意しました。



ビニールハウスの完成後、参加農家は松井専門家の指導の下、ハウス内外でのパクチョイ、白菜、レタス、トマト、ニンジンなどの検証栽培を開始しました。特にパクチョイや白菜は県内レストランからの需要が高いものの供給量が足りないため、収量をいかに増やすかが課題です。また、トマトやニンジンは雨季の栽培が難しいため、雨季の販売品目拡大とそれによる収入増加のための主要作物です。



検証の結果、特に葉野菜については、激しい雨による種子や芽へのダメージが避けられたことにより、ビニールハウスの効果が発揮されました。

例えば、ある農家のパクチョイは、ハウス内では1畝で10kg、ハウス外では1畝で3kgの収穫量という結果が出ました。



トマトとニンジンについては、ハウスの効果もありましたが、得にニンジンについては高畝による効果が大きく現れました。

このプログラムを通して、農家は身近な材料を活用した低コスト且つ上部なグリーンハウスの建て方を習得しただけでなく、その効果も実感することができました。

プロジェクトとしては、1年を通じた安定供給につながる、雨季におけるビニールハウスの効果を検証でき、また、自然の木材・竹の調達、ビニールシートの共同購入(まとめ買い)や設置に係る共同作業によってコストを抑えることにより、農家でも支払い可能な金額でビニールハウスを建てられることを実証できました。

プログラムの結果は、11月21日にワークショップを開催し、県農林事務所、郡農林事務所及び農家にフィードバックすると共に、ハウスを使った場合と使わなかった場合の生産計画演習を実施しました。



プロジェクトは、今後もこのビニールハウスの取組みを継続し、雨季の安定的野菜栽培を実現したいと考えています。

【研修後のシェンクアン県農家の感想】

- ✓ 野菜栽培でグリーンハウスがないと、品質や数量の要件を満たすことができないことがわかった。
- ✓ 高畝でニンジン育てると平畝よりも育ちがよいように思う。